

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果について

丹波市立久下小学校

【概要】

実施日：令和4年4月19日（火曜日）

実施内容：国語（45分）・算数（45分）・理科（45分）児童質問紙

出題内容：（1）国語、算数、理科はそれぞれ次のアとイを一体的に出題

ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

（2）児童質問紙

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問



【分析と今後の改善点】

○：成果 ▼：課題 《本校児童の全体的な分析結果》

⇒：今後の改善点 《主に日常の授業において、学校として改善する事項》

国語

○ 「書くこと」の内容における正答率が県、全国と比較して高い。条件として出された内容を取り入れ、問われていることに対する文章を書くことができている割合が高い。

○ 話し合う様子を表す文章を読み、話し手の意図を考える問題の正答率が高い。

▼ 「読むこと」の問題では、選択式、記述式に関わらず正答率が低い。内容の読み取りが不十分なため、本文中に出てきた言葉だけで判断している。深い読みには至っていない。

⇒ 文章全体を把握する指導の工夫を行う。文章全体から問われていることに解答するような練習問題を解き、文章の構成、段落間の関係など構造的に理解させる。

⇒ 初見の物語や説明文を、キーワードやしかけなどを読み取りながら短時間で読むなどをスキルタイムに取り入れる。

算数

○ プログラムを作る問題の正答率が高い。プログラムの表す意味や作り方など理解している。

○ 図形について、意味や性質を理解している。

- ▼ 乗法の見積もりの考え方が理解できていない。問題の意味も理解できていない可能性もある。
- ▼ 割合に関する問題では全体的に正答率が低い。もとにする量、くらべる量、割合の関係の理解が低いため、誤答の種類が多岐に渡っている。百分率や計算時には、小数として計算することの理解が乏しい。
- ⇒ 割合の考え方を、関連単元をつなげて指導したり、図を効果的に取り入れたりすることで、意味理解を深める。
- ⇒ 筆算の技能だけでなく、概算することで答えのおおよその見積もりをする習慣をつける。
- ⇒ どんな内容の問題であるか、意識させた上で、問題を解くよう習慣化させる。

理科

- ▼ いくつかの事象から問題を見出す問題での正答率が低い。
- ⇒ 実験器具などの名称も実験の中で正しく使う。
- ⇒ 学習の流れの中で、児童が問題を見出し、学習課題をつくるような学習展開にする。

児童質問紙

- 学校外での学習（家庭学習、学習塾など）にも長時間取り組んでいる。ほとんどの児童が書く問題でもあきらめず解答していた。児童は地域とのつながりを持ち生活している。
- ▼ 自尊感情が低い傾向がある。
 - ・ ゲームやインターネットを長時間している割合が高い。
 - ・ 読書をする時間が短い傾向がある。
- ⇒ 自己肯定感を高めるために、一人ひとりを認められる機会を増やし、教職員だけでなく、周りの児童同士でも言葉に表せるようにする。
- ⇒ メディア時間の見直しを、児童だけでなく保護者にも啓発して行う。
- ⇒ 読書の推奨を行う。学校、家庭での読書習慣の啓発や学校図書館や学級文庫などで児童が本を読みやすいよう環境を整える。

